



小さいころからいい楽器で音楽の夢を広げてもらいたいと、10年ほど前、4・5歳の子どもでも扱える幼児用のフルートを世界で初めて開発しました

世界各国の奏者から高い評価と信頼を受け、フルート界をリード 今日もまた美しい音をつくる

ひさくら
久蔵菊雄さん
(フルート製作者)



世界各国のフルート奏者から高い評価と信頼を受けている三響フルート。社長でフルート製作者の久蔵菊雄さんは70歳になった今でも製作研究、技術開発に力を注いでいます。久蔵さんは、昭和4年に千葉県で生まれ、昭和23年に日本音楽専門学校のヤマハに入社しクラリネットとフルートの製作を始め、6年後、村松フルート製作所(所沢市)に移り、この時からフルートの製作に専念します。現在でも研究・技術開発に熱心なのは「ここで培われたもの。そして昭和43年、仲間2人とともに三響フルートを設立し、以来よい音と確かな技術を追求し続けています。フルートの製作は、やすりで削り、溶接して作るため、やすりがうまく使えないといけません。飾り職人に通じる細かい作業ができる腕が必要です。昔は、一つ一つの部品をやすり

で削り、溶接しながら全ての工程を一人で作っていたそうですが、現在は分業で製作するのが一般的です。そんな時代となった今でも、よりよい音を求め、一人で試作のフルートを作り上げます。現在久蔵版ピッコロを研究中です。

「最初は音が出にくいかもしれませんが、フルートはだれにでもできる楽器です。お子さんからお年寄りまで、フルートを楽しみのひとつに加えていただければと思います。大切に使用は100年使えますよ。」と久蔵さん。今は自分で演奏するよりも、もっぱら観賞専門で、自分が作ったフルートを使っている奏者の演奏会には、「どんな演奏をしているか」、「理想の音はでているか」、「満足してくれているだろうか」とほとんど足を運びます。さらに、自分の作品を使っていてくれたがたのために近隣だけでなく地方も回り、ケアクリニックも行っていきます。フルートに携わり50年以上たった今でも久蔵さんはその研究心と開発力を発揮し、フルート界をリードしています。

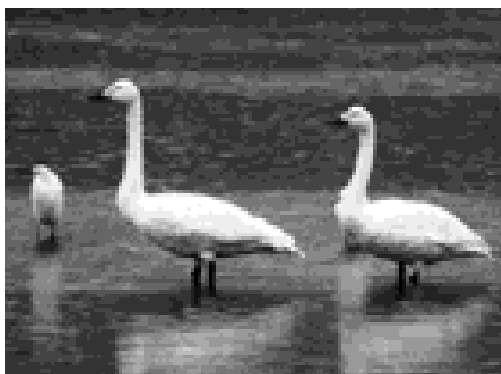


ご自分の作業場で試作中のピッコロ(木製のフルート)を手にして

植物・生き物 / しょくぶつ・いきもの

さやまの生態系 コハクチョウ (ガンカモ目ガンカモ科)

10月17日、入間川の笹井ダムの上流に、この地区では珍しいコハクチョウが2羽飛来しました。わずか数時間の滞在でしたが、目撃者から連絡を受け、観察、撮影することができました。市内では、入間川で過去に数例の観察記録があるだけで、最近の越冬記録はないようです。全長は約120センチ、体重5〜6kgのこの鳥は、文字どおり全身が白一色で、くちばしは黒く、上の部分が黄色、足は黒色です。幼鳥は全体的に灰色を帯びていますが、今回目撃されたのは、2羽とも成鳥のようでした。



撮影：埼玉県生態系保護協会狭山支部・矢内昭夫さん(水野)

Vol 56